

## 産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 6年 6月 5日

堺市 殿

## 提出者

住 所 京都府宮津市字須津471-1

氏 名 金下建設株式会社

代表取締役社長 金下 昌司

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和 5年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事 業 場 の 名 称	金下建設株式会社 大阪支店
事 業 場 の 所 在 地	大阪市北区西天満4丁目3番25号 梅田プラザビル本館 7 F
事 業 の 種 類	06 総合工事業
産業廃棄物処理計画における 計 画 期 間	令和5年4月1日から令和6年3月31日

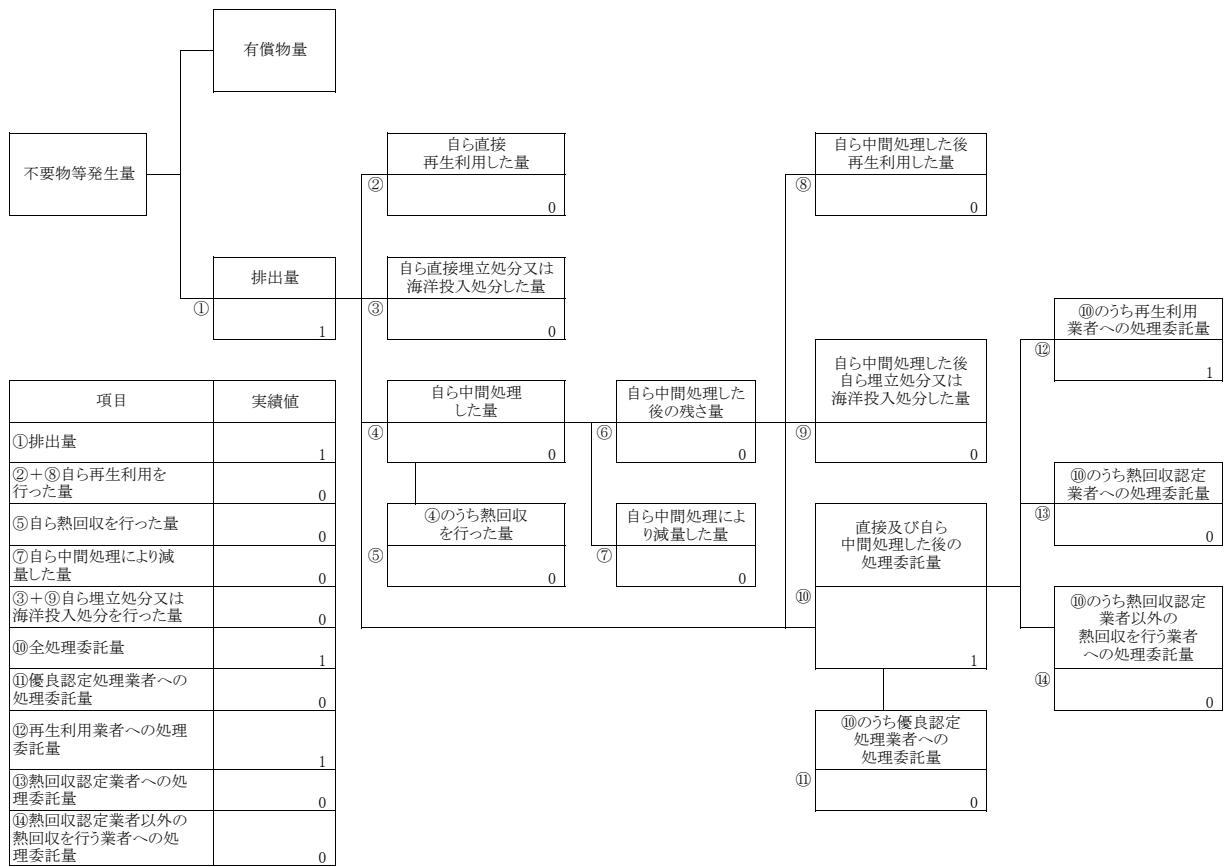
## 産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排 出 量	510t	全 処 理 委 託 量	510t
自 ら 再 生 利 用 を 行 う 産 業 廃 棄 物 の 量	t	優 良 認 定 処 理 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t
自 ら 热 回 収 を 行 う 産 業 廃 棄 物 の 量	t	再 生 利 用 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t
自 ら 中 間 処 理 に よ り 減 量 す る 産 業 廃 棄 物 の 量	t	認 定 热 回 収 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t
自 ら 埋 立 处 分 又 は 海 洋 投 入 处 分 を 行 う 産 業 廃 棄 物 の 量	t	認 定 热 回 収 業 者 以 外 の 热 回 収 を 行 う 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t
※事務処理欄			

(日本工業規格 A列4番)

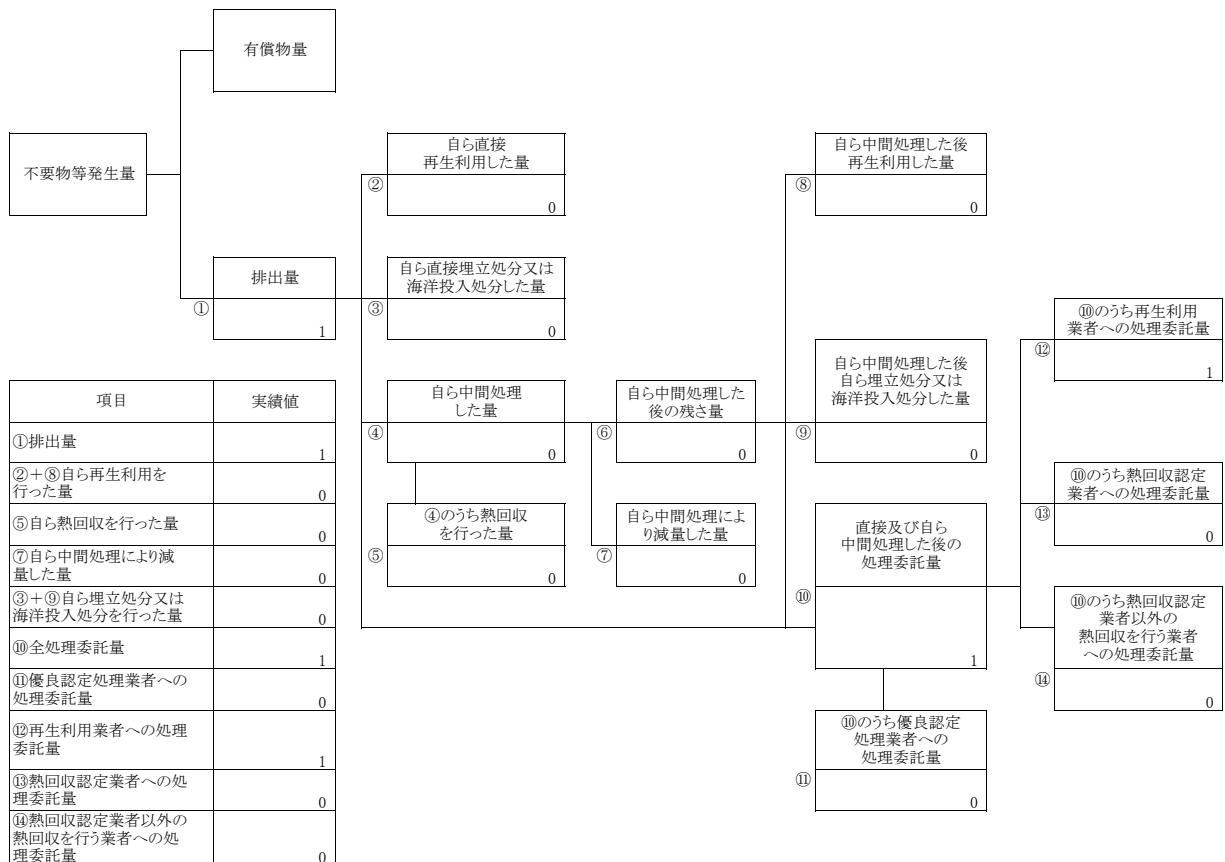
## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: ①建設系混合廃棄物 )



## 計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: ②廃石膏ボード )



## 備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物処理に関して、①～⑯の欄のそれぞれに、(1)から(16)に掲げる量を記入すること。
  - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
  - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
  - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
  - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
  - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
  - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
  - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
  - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
  - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
  - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
  - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
  - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
  - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
  - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄には、何も記入しないこと。

産業廃棄物処理計画実施状況報告書の〔別紙〕

提出者	名 称	担当部署	担当者名	電話番号	FAX	電子メールアドレス
産業廃棄物を排出する事業者を統括的に管理する支社等の住所	産業廃棄物を排出する事業場を統括的に管理する支社等の名称	報告担当部署の名称	報告担当部署の氏名	報告担当部署の電話番号	報告担当部署のFAX番号	報告担当部署の電子メールアドレス

産業廃棄物の種類 参照	仕 略 の 実 施 状 況										(注)=①~2~3~4~5~6~7~8~9=⑩+⑪+⑫+⑬+⑭	⑮+⑯ 自ら再利用分又は海 洋投げた量	⑯+⑰ 自ら再利用 分又は海 洋投げた量		
	⑮ 自ら出張 ⑯ 自ら直接 再生利用した量 (t)	⑰ ②自ら直接 再生利用した量 熱回収を行った量 (t)	⑱ ③自ら中間処理 熱回収を行った量 (t)	⑲ ④自ら中間処理 により減量した量 (t)	㉑ ⑤自ら中間処理 した後の残存量 (t)	㉒ ⑥自ら中間処理 した後再生利用 自ら直接再生分又は海 洋投げた量(t)	㉓ ⑦自ら中間処理した後の 自己処理した後 自ら直接再生分又は海 洋投げた量(t)	㉔ ⑧自ら直接 再生利用した量 熱回収を行った量 (t)	㉕ ⑨自ら直接 再生利用した量 熱回収を行った量 (t)	㉖ ⑩自ら直接 再生利用した量 熱回収を行った量 (t)	㉗ ⑪自ら直接 再生利用した量 熱回収を行った量 (t)	㉘ ⑫自ら直接 再生利用した量 熱回収を行った量 (t)	㉙ ⑬自ら直接 再生利用した量 熱回収を行った量 (t)	㉚ ⑭自ら直接 再生利用した量 熱回収を行った量 (t)	
ヨーク 名 称															
コード 産業廃棄物の種類 参照	発生した産業廃棄物の 種類ごとの量 自ら再生利用した量	①の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	②の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	③の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	④の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑤の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑥の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑦の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑧の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑨の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑩の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑪の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑫の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	⑬の量のうち、中間 処理せざる直接再生 又は海洋投げた量	
1 2000 ①建設系混合廃棄物	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0														
2 1322 ②陶石膏ボード	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0														
3 ③	1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0														
4 ④															0 0 0 0
5 ⑤															0 0 0 0
6 ⑥															0 0 0 0
7 ⑦															0 0 0 0
8 ⑧															0 0 0 0
9 ⑨															0 0 0 0
10 ⑩															0 0 0 0
11 ⑪															0 0 0 0
12 ⑫															0 0 0 0
13 ⑬															0 0 0 0
14 ⑭															0 0 0 0
15 ⑮															0 0 0 0
16 ⑯															0 0 0 0
17 ⑰															0 0 0 0
18 ⑱															0 0 0 0
19 ⑲															0 0 0 0
20 ⑳															0 0 0 0
合計	2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0														0 0 0 0

(注)トネル添は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

(注2)上記の産業廃棄物の種類以外の排出実績があった場合は、必要に応じ、直接追加入力とともに、第2面も追加してください。